



学校だより

新潟市立中之口東小学校 2026. 4. 30
第396号 子ども数104名
ホームページ
<https://www.kiranico.jp/>



子どもファースト

校長 小森 康貴

ニュースなどで「〇〇ファースト」という言葉をよく耳にします。「ファースト」の意味は「第一」「最優先」です。「〇〇を第一に考えています」「〇〇を最優先します」といった思いを短い言葉で表しているということです。それでは、学校にとって第一に考え、最優先すべきものは何でしょうか。それは、間違いなく子どもです。学校は「子どもファースト」でなければいけません。もちろん、中之口東小学校も「子どもファースト」で教育活動を実施してきました。他の学校も同様と思います。しかし、もっと「子どもファースト」を突き詰めて、大切にしていけることができるのではないかと思います。今年度のスローガンに掲げました。4月1日の新年度初日は職員に、4月7日の始業式では子どもたちに「子どもファースト」について話をしました。

では、「子どもファースト」とは何でしょう。「子どもファースト」とは、決して、子どもに好き勝手させることや、子どものわがままを受け入れるということではありません。

「子どもファースト」とは、子どもの人権を尊重し、子どもに寄り添うこと

です。「子どもだから」「子どものくせに」という気持ちで接するのではなく、一人の大切な人間として子どもと接することです。

具体的には、特に、次の2点を大切にしていきます。

1 子どもの話をじっくり聴く

「子どもファースト」で最も大切なことは、子どもの思いを受け入れることです。そのためには、子どもの話を頭ごなしに否定せず、じっくり聴く必要があります。例えば、学級の子供が「学校でゲームがしたい」と言ったとします。そのとき、「できるわけないでしょう」と頭ごなしに否定するのではなく、「ゲームをしたい気持ちはよく分かりますが、学校ではゲームはできないのです」と、子どもの思いは受け入れたうえで、できないことはできないと伝えることが大切です。

2 子どもの気持ちを想像する

子どものプライドを傷つけるようなことはしません。例えば、宿題をしてこない子どもの名前を黒板に掲示したり、大勢のクラスメートの前で強く叱ったりしたら子どもは傷つきます。このようなことは、子どもの気持ちを想像すればしないはずで、大人がされて嫌なことは子どもも嫌です。今まで当たり前に行われてきた指導に対しても疑問をもち、子どもの気持ちを想像して指導方法を変える必要があります。

他にも、教師の都合で、授業終了時刻を勝手に延長したり休み時間を減らしたりすることは、子どもにとっては嫌なことです。子どもの気持ちを想像したら、子どもが理不尽に感じることはしないはずで、

「この指導は子どもファーストか?」「この対応は子どもファーストか?」と、指導や言動を振り返りながら教育活動を実施することによって、中之口東小学校は、もっと素晴らしい学校になるはずです。令和8年度は、職員一同、「子どもファースト」で子どもと向き合います。よろしくお願いします。